

## 介助や指示を受けて、からだを動かすことを楽しむ子

田 中 美 美

6年生に成長したK児は、母親の介助を受けながら、学校を休まない・遅刻をしないことを目標に毎日バス通学をしている。体格は標準に成長しているが、その他の面においては、ダウン症であるための障害を数多く持つこと、誕生から過保護傾向の強い環境で育ったことが原因して、自らの力で物事を行おうとする意志・体力を持たず、介助や指示によって生活している。

入学以来、両親や先生の指導によって、文字や言語・運動感覚機能も数々習得しているが、依頼心や甘えが先行し、座り込んで動かないとか、他のことに代替させて逃避することを覚え、介助や指示がなければからだを動かさそうとしないK児の様子について述べてみたい。

### 1. 実態と当面する課題

○ 障 害 名    ダウン症

○ 生 育 歴

・ S 52.5.23 生（12才と6カ月） 男子

・ 1：6才のとき、ダウン症候群と診断（県立中央病院）。2才で歩行器を使用する。

・ 3：6才で県立療育園に入園、5才でY学園に入園する。歩けるようになったが、お尻をつき出し、よちよち歩きをする。

・ 6：11才、本校入学、2～5年生で養護訓練を抽出で受け、ゆっくりと一人歩きができ出す。S 62.6、C病院より両外反足と診断され、両足底装具を装着していたが、本人が嫌がり途中でやめる。H元年8月、体重が増加すると歩行不可能になることもあったと診察され、再度矯正靴を使用する。

・ 身長 150.9 cm、体重 51.3 kg（ローレル指数 154）                      （H元. 10月調べ）

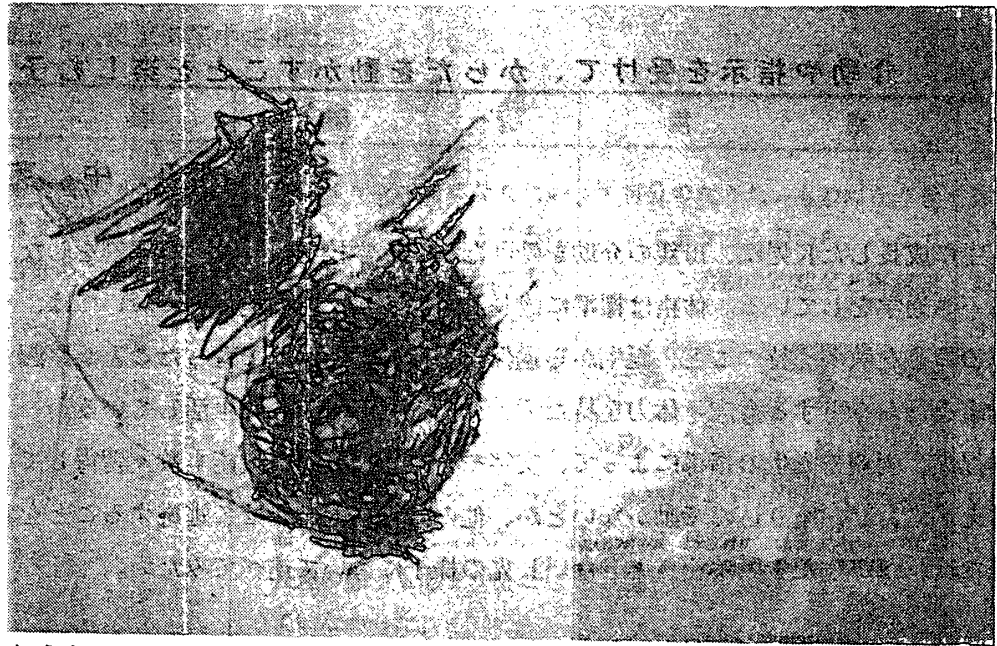
筋力・腰の力がほとんどなく、自分の体を持てあまし気味、腰をおとして、お尻をつき出して歩く。

・ いくつかの言語の獲得はされているが、発語は気嫌のよいときに限られ、助詞を使うことなく、二つの言葉を続ける程度である。

○ 実態と課題

身長伸びと共に、K児の表情が明るくなり動きもある瞬間に敏速なものが見られた。しかし、それは自分が欲する食べ物を取るときであったり、人をたたいたりするときに限られ、自分の意にそわぬときは指示に従うことなく、他のことに逃避したり、泣きわめいたり、介助してもらうまで待つという傾向が強くなってきた。





遠城寺式乳幼児発達検査によると、K児の発達年齢は2：3才位、絵画の表現からみると、肩や肘を軸とする往復運動を行うことで、1：5才程度でないかと推察される。手や移動の運動が低下しているのは、前記のやりたくないことはしないというK児の思いが邪魔した結果ではと考察している。

そこで、からだを動かすことを楽しむことを害すると思われる問題点を考察すると、

- すぐに座りこんでしまい、「ここすき」と、言って動こうとしない。
- 坂道・階段の登り降りが、恐怖心が先に立ちスムーズにできない。
- 平衡感覚が希薄であるため、左右・後ろに動くことが苦手である。
- 筋力がないために、高い所に登れない。障害物を越えて歩行することができない。
- 自分の思いで行動するので、指示に素直に従えない、介助を求める、集団行動を嫌う。
- 「そんなことは、できない」「きたない、きけんから」と、両親からの制限が多い。

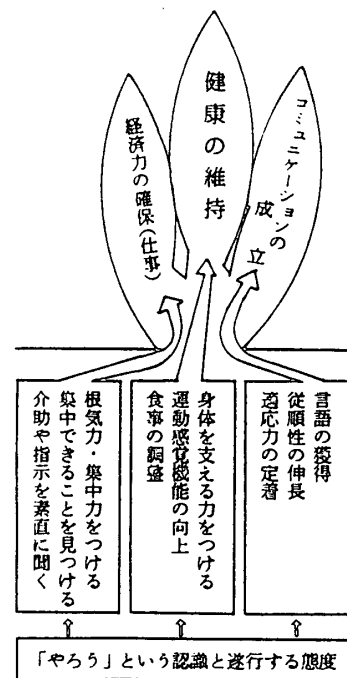
等のことが挙げられると思う。

## 2. 個人目標と指導方針

### ○ 仮説と個人目標

K児の場合は、実態から鑑みて体力や筋力の不足も勿論であるが、からだを動かそうとしない要因として環境からきた経験不足、依頼心や甘えによる心の問題等、広い範囲で仮説をたて、先の見通しをもって、右図のように個人目標をたて指導方針を具体化した。

からだを動かすことを楽しむ子という研究主題のもと、今回は、健康の維持の部分を中心にその周辺の指導方針について述べたい。



K児の全体目標

### ○ 指導方針

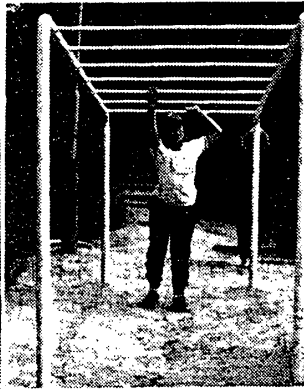
K児の発達と実態から、次のように指導の方針を立案し実践する。

- 見立ては発達からして無理があるので、K児の好むものを指示し、つもり活動でからだを動かすようにする。
- 歩く楽しさ、走る面白さを自然の中を動きまわることによって体験させる。  
声かけや指示によって、K児の興味を自然に向けて無意識のうちに体を動かす。そして、敏しょう性や運動感覚を養う。
- サーキット・合同体育・合同音楽・個別指導を適切な指示や介助で行う。
- 養護訓練によって欠如部分を是正する。
- 家庭との連絡を密にして、からだを動かすこと（散歩・水泳）・食事の調整を行う。
- 両親と話し合う機会を多くし、共通の方針で指導を行う。

### 3. 実践内容（部分）



〔すわりこむK児〕



〔指示で体を動かすK児〕

「ここすき」と言ったきり動こうとしない、厳しく制するとパニックをおこし全身をふるわせて、口びるをかきむしるK児。しかし、目的があるときは、背をゆすってお尻をふりふり歩くK児には何かできると思われる。カセットから音楽が流れると、嬉しそうに笑い、体をゆす

るK児には、BGMが有効。

### ○ K児の1日

時刻	内 容	ね ら い	援 助		備 考
			指 示	介 助	
8:40	着替え	衣服の着脱を早くする	・様子を見る (自力で動くのを待つ) ・「○○して下さい」 声かけ	部 分	着脱は、自力で行う。脱いだ衣服をたたむ、かけるが課題。
9:00	サーキット ・ブロック飛び ・平均台あたり ・フアンニートンネル ・マット ・すべり台の登り降り ・トランポリン ・けんぼ	運動感覚機能の向上	・「しなさい」と命令口調の声かけ ・「しなさい」と声を大きくする	ブロックに上がる時、低い位置で手をそえる。  お尻を軽く支える。 数を数え(1~20)リズムに乗せる 「けんぼ、けんぼ」と声かけ	火・水・金・土の4回 月・木は個別指導で指先を使っ ての機能訓練を実施
9:30	階段歩行 校庭の遊具まわり つり橋・丸太渡り とび石・石登り 坂道下り・チューブ引き	正しい姿勢の歩行 坂道・階段を登る 身体を支える力	「右足・左足」と声かけ  サーキットの場合と同じ	教師が示範し、模倣するのを待つ (教師が先に行く)	K児の疲れの様子を見て実施する 体調のよくないとき、雨天の場合は室内遊びを実施
11:00	生活単元学習	略	略	略	行事単元を中心としたつもり活動で実施
13:00	自由散策	脚力の強化 反射の獲得	K児の「こわい」という物を持って、後ろから追いかける		なし・にわとりを持ってK児のすぐ後ろを走る

## 【5】 今後の課題

研究の1年次は、学部のテーマの決定と研究の構想図の作成、実態把握のための諸調査が中心となり、これらを基にした指導法をムーブメント教育の理論に求めた。ムーブメント教育の理論の共通理解を深めながら、実践の場を合同体育・合同音楽・リズムサーキット・校外体験学習・日常生活の指導・遊び等に合わせ、資料集めと子どもたちの変容、取り組みを見つめてきた。12月の研究発表後、実践の場を生活単元学習の中で総合的にとらえていった。その試みとして、2月の学習発表会の単元、劇「こぶとりじいさん」に組み入れていった。生活単元学習の中に表現活動をどのように具現化していくか今後の研究に待つところまで進めた。

研究の2年次を迎え職員の異動が大きく、研究の中心となっていた担当者もその対象となるなど悪条件の中での研究となったが、1年次の研究を続けながら、表現活動（身体表現、言語表現・造形表現等）の面にもメスを入れ児童の取り組む様子や変容を見ていくようにした。各学習形態で培った力が基となって生活単元学習の中に生かされ、更に大きな自信となり、各学習形態の中に高まりとなって表われることを願っての実践であった。宿泊学習等の単元に少しずつではあるが生かされてきている。更に実践を積んで、より確かなものとしていきたい。

実態把握から、障害別による視点のあて方、発達段階を基にした課題の設定等々きめ細かに個に即した目標を明確に設定していくこと、子ども達が楽しんで意欲をかきたてながら活動していくような単元内容を作っていくこと、段階別教育内容表（本校作成のもの）に基づく総合的な評価等次年度の研究に期待をつないでいるところである。